

- ①遺族・僧侶に一礼。
祭壇一步手前まで進み出て、遺影を見て深いお辞儀をする



仏教（立礼・拝香）

拝礼の仕方

- ②右手の親指・人差し指・中指で抹香をつまみ、目の高さまで上げて抹香を押しいただく
③香炉にくべる



②祭壇まで進み出る

上半身を少し前に倒す

③合掌する



⑦遺族・僧侶にやや深めのお辞儀をして席に戻る



⑥一步下がり、遺影を見てから深いお辞儀をする



お悔やみの言葉

遺族へお悔やみの言葉をかけたいと思われているでしょうが、遺族は多くの弔問客に同じように接しなければならぬ立場です。お悔やみの言葉は状況に応じて簡潔に、死因などを聞くのも遺族にとっては、何度も話すことになるので慎みます。

仏教以外の式では、「焼香」「冥福」「成仏」「供養」などの仏教用語は使わないようにします。

お悔やみの言葉の例

（一般的に）

○このたびは、ご愁傷様でございます。心よりお悔やみ申し上げます。
○このたびは、思いがけないお知らせを受けまして、驚きました。いまだ、信じられない気持ちでございます。

（不慮の死）

○何と申し上げてよいか、言葉が見つかりません。心よりお悔やみ申し上げます。
○思いがけないことで、まさかという気持ちです。心申お察し申し上げます。

（阪急いのことき）

○過日、お見舞いにかがったときは、お元気でいらしたのに、残念でなりません。